

第3章 環境指標の把握と評価

第4節 地盤沈下



第 4 節 地 盤 沈 下

1 地盤沈下調査

(1) 地盤沈下変動量

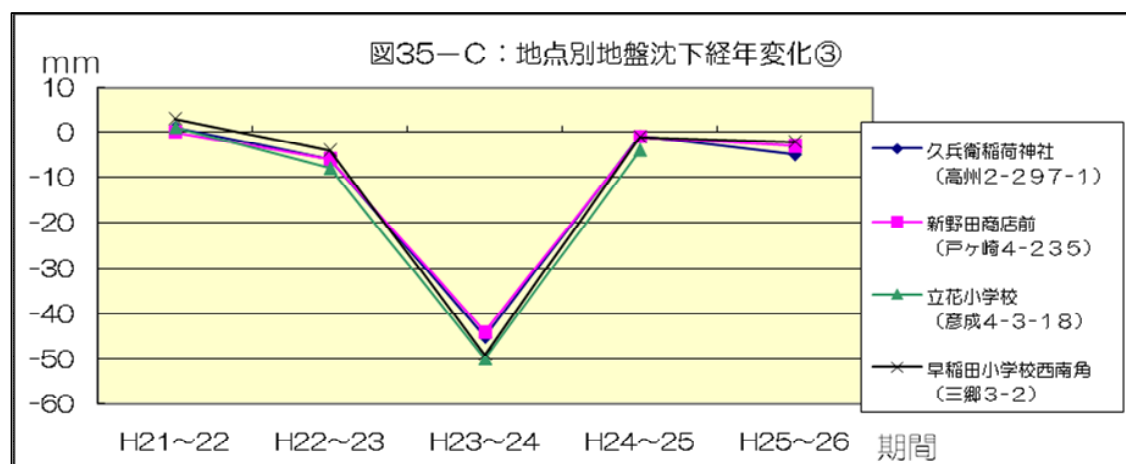
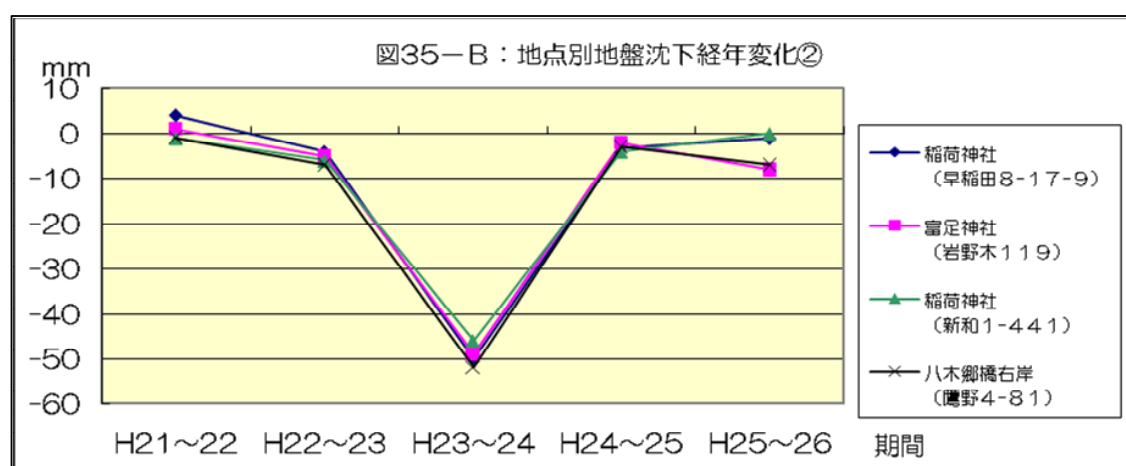
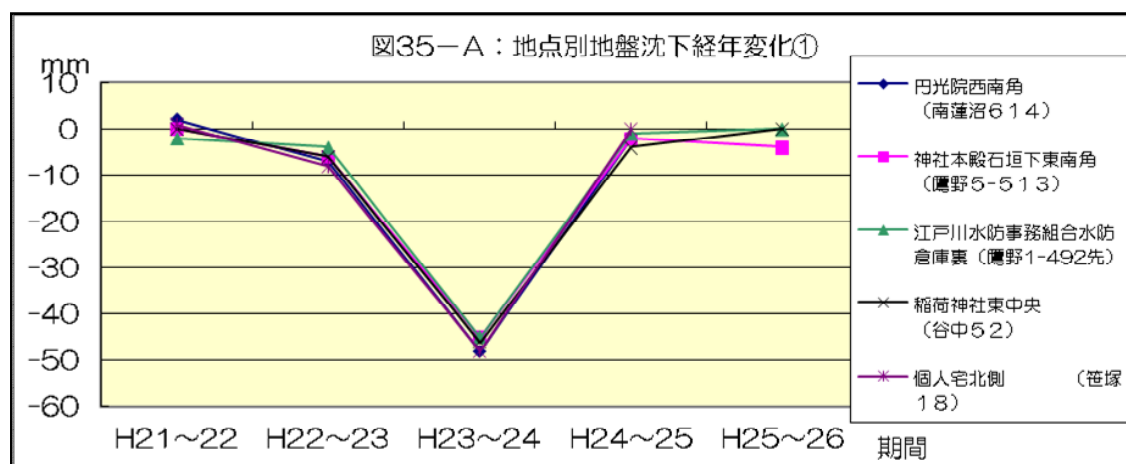
三郷市の地盤沈下に係る調査は、埼玉県が市内 10ヶ所の地点で測量調査を行なっている。
その調査結果は表 32 及び図 32-A・B・Cのとおりである。

地盤沈下変動量 [単位：mm] (表 32)

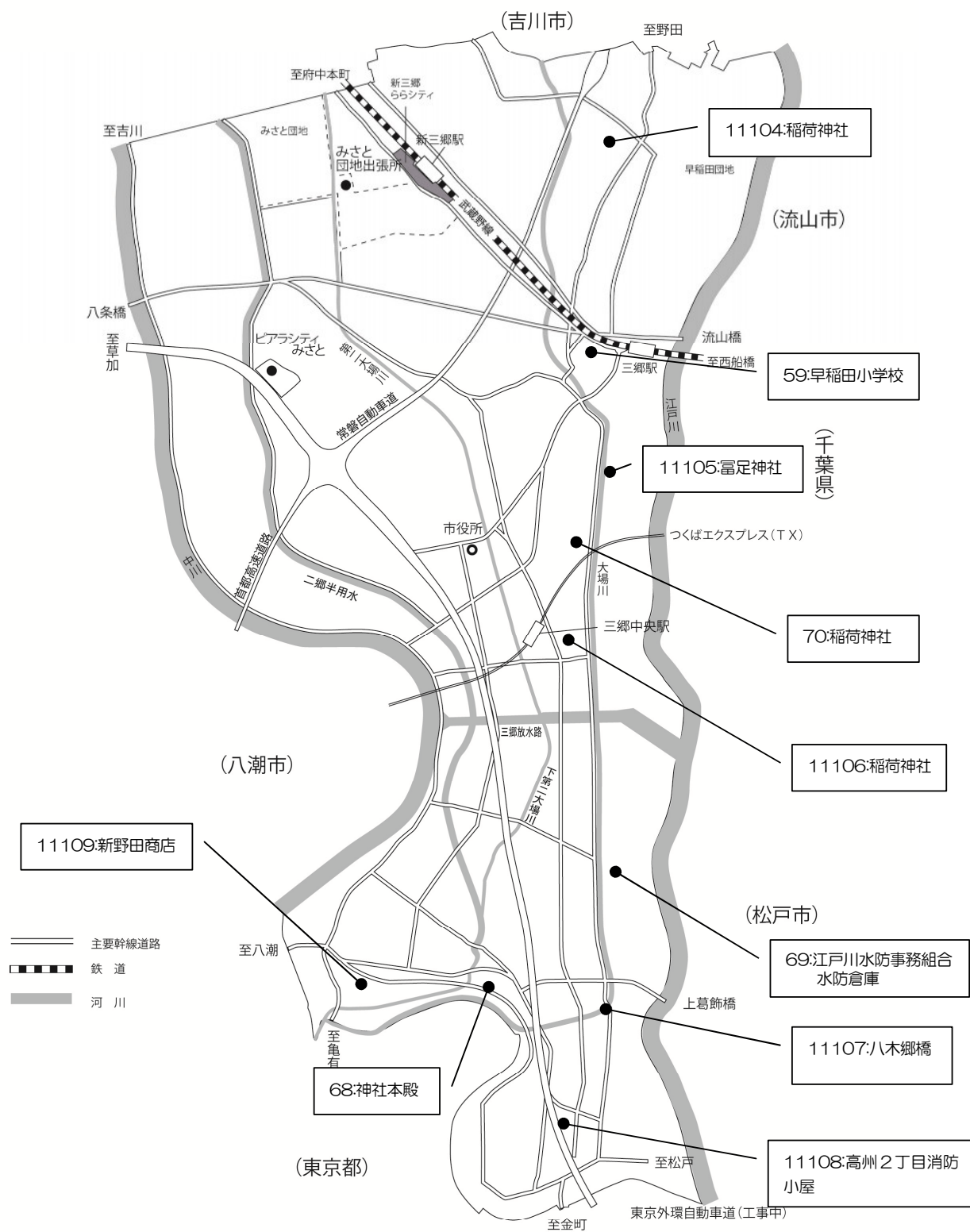
(埼玉県地盤沈下調査報告書)

基準番号	目標・所在地	調査開始	調査開始 時の真高	H23~24	H24~25	H25~26	過去5年間 の変動量	調査開始か らの変動量	H26. 1. 1 の 真 高
58	円光院西南角 (南蓮沼614)	S36. 2. 1	3, 651	-48	-2	中止			
68	神社本殿石垣下東南角 (鷹野5-513)	S36. 2. 1	2, 750	-45	-2	-4	-56	-979	1,749
69	江戸川水防事務組合水防倉 庫裏 (鷹野1-492先)	S36. 2. 1	2, 041	-45	-1	0	-51	-912	1,645
70	稲荷神社東中央 (谷中52)	S36. 2. 1	2, 360	-46	-4	0	-56	-1004	1,331
2299	個人宅北側 (笹塚18)	S36. 2. 1	3, 001	-48	0	中止			
11104	稲荷神社 (早稲田8-17-9)	S36. 2. 1	2, 672	-50	-3	-1	-53	-131	2,517
11105	富足神社 (岩野木119)	S36. 2. 1	3, 278	-49	-2	-8	-63	-230	3,023
11106	稲荷神社 (新和1-441)	S36. 2. 1	2, 980	-46	-4	0	-57	-1024	1,932
11107	八木郷橋右岸 (鷹野4-81)	S36. 2. 1	2, 371	-52	-3	-7	-71	-781	1,567
11108	高州2丁目消防小屋 (高州2-297-1)	S36. 2. 1	3, 295	-45	-1	-5	-57	-427	2,846
11109	新野田商店前 (戸ヶ崎4-235)	S36. 2. 1	2, 645	-44	-1	-3	-53	-808	1,815
55-38	立花小学校校庭北西角 (彦成4-3-18)	S56. 1. 1	2, 388	-50	-4	中止			
59	早稲田小学校校庭西南 角 (三郷3-2)	S58. 1. 1	2, 380	-49	-1	-2	-53	-47	2,308

※過去3年間の変動量は、それぞれ各年度の変動量について、小数点以下も含めた実数を合計した後、各年度については再度小数点第1位で四捨五入しているため誤差が生じている箇所もある。
また、基準番号58・2299・55-38の3地点は、調査から外された。



(2) 地盤沈下測定地点図

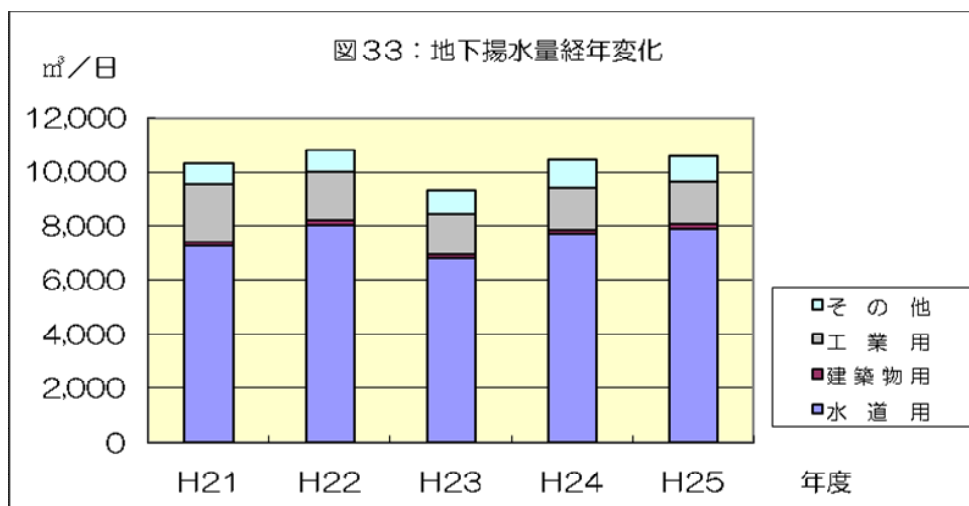


(3) 地下水揚水量

平成 25 年度の地下水揚水量は、表 33 及び図 33 のとおりである。水道用 7,918 m^3 ／日、工業用 1,549 m^3 ／日、建築物用 182 m^3 ／日、その他 945 m^3 ／日で、計 10,594 m^3 ／日である。昨年度に比べて、水道用は 199 m^3 ／日の増加、その他については 89 m^3 ／日減少した。地下水揚水量全体では、118 m^3 ／日の増加であるが、過去 5 年間（図 33 参照）の経年変化は、ほぼ横ばいである。

地下水揚水量経年変化（表 33）[単位： m^3 ／日]

項目・年度	23年度	24年度	25年度
水 道 用	6,812	7,719	7,918
建 築 物 用	140	141	182
工 業 用	1,496	1,582	1,549
そ の 他	883	1,034	945
計	9,331	10,476	10,594



第3章 環境指標の把握と評価

第5節 苦情処理状況



「環境フェスタみさと」環境ポスター展 三郷中央ロータリークラブ賞 早稲田小学校 大谷内 美侑 さん

第 5 節 苦 情 処 理 状 況

苦情処理の概要

平成25年度の苦情処理件数（表34及び図34参照）は、年間で65件あり、このうち、典型7公害（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下、悪臭）についての苦情が27件、その他が38件である。

典型7公害のうち、水質汚濁による苦情が増加傾向にあるのは、河川への油等の流出が増加したためと思われる。

また、近年では、騒音と振動等の複合型公害の苦情が増加している。

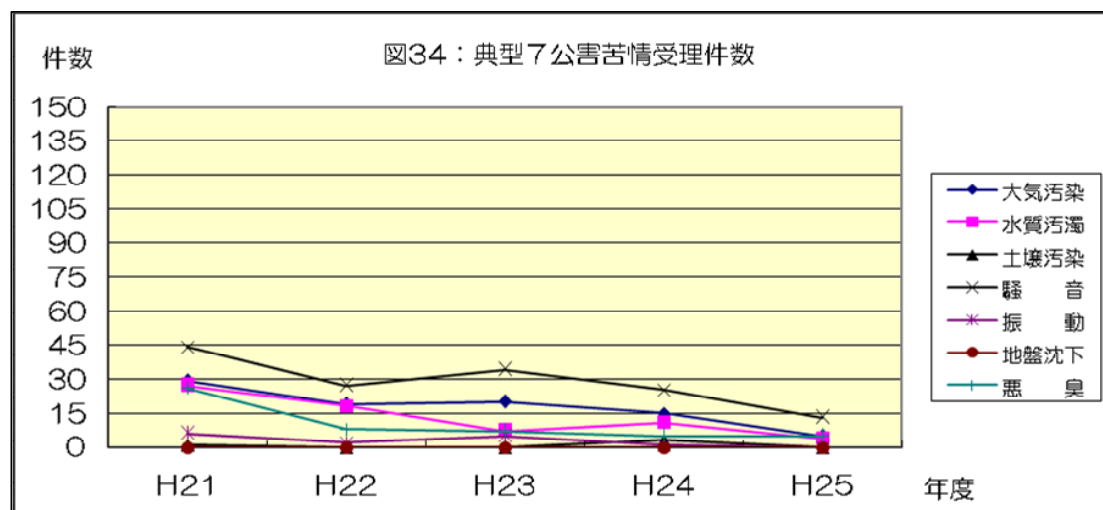
その他の苦情については、ほとんどが雑草の繁茂による苦情である。

年度別苦情処理件数〔単位：件〕（表34）

項目・年度		23年度	24年度	25年度
典型7公害	大気汚染	20	15	5
	水質汚濁	7	11	4
	土壌汚染	0	3	0
	騒音	34	25	13
	振動	5	1	0
	地盤沈下	0	0	0
	悪臭	7	5	5
その他		90	59	38
合 計		163	119	65



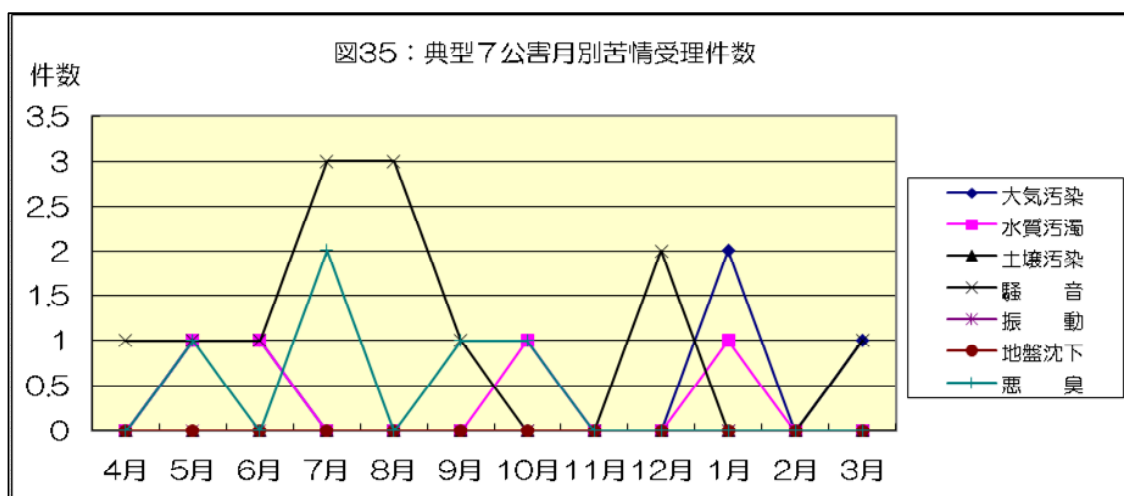
野外焼却の現場の様子



平成 25 年度の月別苦情処理件数（表 35 及び図 35 参照）をみると、5 月から 1 月くらいにかけて苦情が多く、冬期には少ないという傾向がわかる。昨年に比べ、大気及び水質汚濁に係る苦情は減少した。それ以外の苦情については横ばいという結果であった。

平成 25 年度月別苦情件数（表 35）

項目・月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
大気汚染	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	0	1	5
水質汚濁	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	4
土壌汚染	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
騒 音	1	1	1	3	3	1	0	0	2	0	0	1	13
振 動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地盤沈下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
悪 臭	0	1	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	5
そ の 他	0	2	1	7	11	6	4	2	4	1	0	0	38
合 計	1	6	4	12	14	8	6	2	6	4	0	2	65



第3章 環境指標の把握と評価

第6節 ダイオキシン類



「環境フェスタみさと」環境ポスター展 河川環境賞 八木郷小学校 半田 竜馬 さん

第 6 節 ダイオキシン類

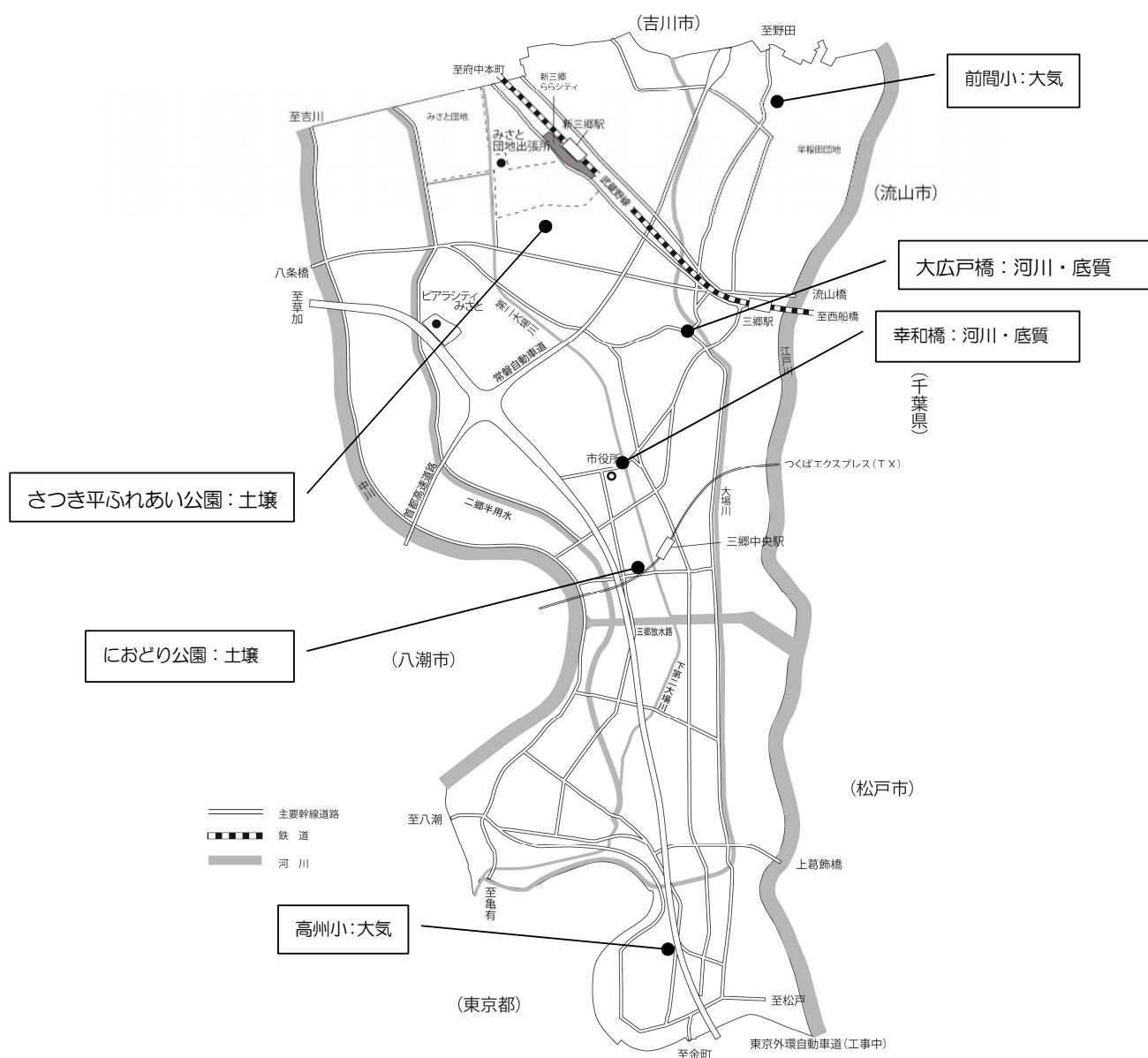
1 環境基準等

(1) 環境基準等

環境項目	単 位	環境基準値
大 気	$\mu\text{g-TEQ} / \text{m}^3$	0.6
土 壌	$\mu\text{g-TEQ} / \text{g}$	1,000
河 川 水	$\mu\text{g-TEQ} / \text{リットル}$	1
河 川 底 質	$\mu\text{g-TEQ} / \text{g}$	150
耐受1日摂取量	$\mu\text{g-TEQ} / \text{体重kg} / \text{日}$	*4

注： μg （ピコグラム）＝1兆分の1

(2) ダイオキシン類測定地点図



2 ダイオキシン類の調査

(1) 大気の測定結果と評価

平成25年度は、大気中のダイオキシン類調査を2地点で各2回行なった。その調査結果は表36のとおりである。2地点の年平均値は、 0.056 pg-TEQ/m^3 であり、季節により値に開きはあるものの、環境基準を下回っている。

経年変化を見ると減少傾向が見られる。

大気におけるダイオキシン類の環境基準 (0.6 pg-TEQ/m^3) と比較して、今年度の数値は2地点とも下回っている。

H25年度・ダイオキシン類（大気）測定結果

[単位：pg-TEQ/m³（ピコグラム）]（表36）

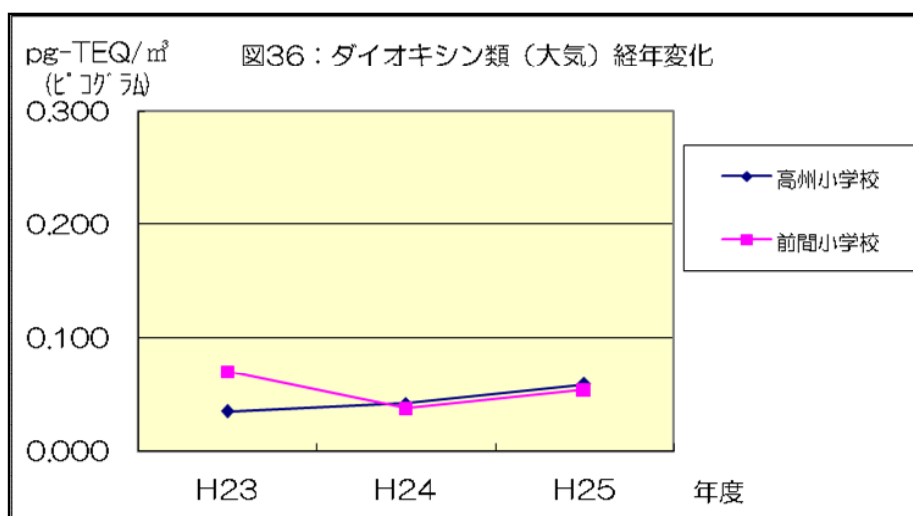
地点・年月	H25 7/25~8/1	H26 1/15~1/22
高州小学校	0.044	0.074
前間小学校	0.022	0.085



分析機関での分析の様子

ダイオキシン類（大気）経年変化 [単位：pg-TEQ/m³（ピコグラム）]（表37）

地点・年月	平成23年度	平成24年度	平成25年度
高州小学校	0.035	0.042	0.059
前間小学校	0.070	0.038	0.054



(2) 土壌の測定結果と評価

平成 25 年度の土壌中のダイオキシン類調査についての調査結果は表 38 のとおりである。数値は 0.0037～3.4pg-TEQ/g となり、2 地点の平均値は 1.701pg-TEQ/g となる。

土壌中におけるダイオキシン類の環境基準値（1,000pg-TEQ/g）と比較すると、測定値は大きく下回っている。

ダイオキシン類（土壌）経年変化 [単位：pg-TEQ/g（ピコグラム）]（表 38）

地点・年月	H23.10.7	地点・年月	H24.10.9	地点・年月	H25.10.11
戸ヶ崎 みなみ公園	0.086	におどり公園	0.017	におどり公園	3.4
彦成公園	1.6	さつき平 のぞみ公園	2.8	さつき平 ふれあい公園	0.0037

(3) 河川底質の測定結果と評価

平成 25 年度の河川底質中のダイオキシン類調査についての調査結果は表 39 のとおりである。調査場所は、大場川及び第二大場川のそれぞれ 1 ヶ所を調査し、平均値は 21.75pg-TEQ/g であった。

河川底質中におけるダイオキシン類の環境評価については、環境基準（150pg-TEQ/g）との比較では、それぞれの調査地点において低い値であった。

また、それぞれの地点において過去に使用された除草剤による影響と考えられる調査結果が得られた。

ダイオキシン類（河川底質）経年変化 [単位：pg-TEQ/g（ピコグラム）]（表 39）

地点・年月	H23.11.7	地点・年月	H24.11.5	地点・年月	H25.11.28
大場川橋 （大場川）	2.3	大場川橋 （大場川）	2.2	大広戸橋 （大場川）	35
第二彦糸橋 （第二大場川）	23	第二彦糸橋 （第二大場川）	15	幸和橋 （第二大場川）	8.5

(4) 河川水の測定結果と評価

平成 25 年度の河川水中のダイオキシン類調査についての調査結果は表 40 のとおりである。調査場所は、大場川及び第二大場川のそれぞれ 1 ヶ所を調査し、平均値は 0.52pg-TEQ/l であった。

調査地点 2 地点中 2 地点とも、環境基準値（1pg-TEQ/l）内であった。

ダイオキシン類（河川水）経年変化 [単位：pg-TEQ/g（ピコグラム）]（表 40）

地点・年月	H23.11.7	地点・年月	H24.11.5	地点・年月	H25.11.28
大場川橋 （大場川）	0.39	大場川橋 （大場川）	0.61	大広戸橋 （大場川）	0.92
第二彦糸橋 （第二大場川）	0.98	第二彦糸橋 （第二大場川）	1.00	幸和橋 （第二大場川）	0.12

